

アジアパシフィックにおける資産運用ビジネスの枠組み

ダニエル・セリギン

目次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 地域外（非ローカル）ファンドビークルの低下 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 変化する投資家の人口動態 4. アジアパシフィック地域の3本の柱 5. まとめ |
|---|--|

1. はじめに

アジアパシフィック地域は、長期にわたり資産運用ビジネスにおいて大きな市場であった。北米と欧州をベースとしたグローバルな運用会社、および日本のローカル運用会社は、アジアパシフィック地域の投資家需要を拡大する主要な役割を果たし、現在約8兆米ドルの資産運用額（AUM=Asset Under Management）を有している（図表1）。さらに、アジアパシフィック市場は、これまで例をみないような経済発展と成長に伴い、20年までに、年率平均9%で拡大し、約13兆米ドルに達すると見込まれる。

14年のアジアパシフィック地域における資産運用額(AUM)の国別シェアを見ると、日本(34%)が最大の市場であり、次いでオーストラリア(20%)、中国(18%)となっている（図表2）。

しかし、運用会社の収入（運用報酬）は必ずしも運用資産残高に比例していない。国によって各資産クラスの報酬率がかなり異なるからである。収入へのインパクトという観点では、中国（含香港）は、総じて高い報酬率によりアジアパシフィック地域のネットフィー収入の25%以上を占め（図表3）、今後5年間で最大の年平均増加率を達成すると予想されている。したがって、アジアパシフィック地域での経営戦略では、既に同地域で



ダニエル・セリギン (Daniel Celeghin)

ケイシークアーク&アソシエイツ パートナー、アジアパシフィック社長。香港でアジアパシフィック地域の顧客リレーションシップおよびリサーチを統括。2005年よりアジアパシフィック地域を担当し、資産運用会社の所有・報酬に関する実態調査、オペレーションモデル評価 (benchmarking)、オルタナティブ・プロダクト開発、販売組織の設計、「市場参入」戦略、M&A案件とデューデリジェンスサポートに携わる。また、同社でオルタナティブ投資分野を担当、非伝統的投資プロセスを評価するためのフレームワークを開発、10年にInstitutional Investor誌のHedge Fund Rising Starsの一人に選出される。コーネル大学オペレーション・リサーチ/インダストリアル・エンジニアリング学士取得。